

くまそう

vol. 20 23.
10.

autumn season

Kumagaya
General
Hospital
News Letter

CONTENTS

診療科紹介 外科

部署紹介 看護部

本館4階(H4) 本館5階(H5)

総合健診センターの紹介

リハ科 ワンポイント講座

まちの医療機関

くまそうTOPICS

外科部長
平山 信男 先生

● **外科で扱う病気** 主に消化器、肝胆膵疾患の診断と治療を行なっています。胃がん、大腸がん、肝胆道系がん、膵がん等の各種がん、胆石、ヘルニア(脱腸)等の良性疾患、消化管穿孔、腸閉塞、虫垂炎などの急性疾患にも対応しています。上下部内視鏡、超音波内視鏡、CT、MRI、PETなど最先端機器による正確な診断を行い、手術、化学療法、放射線治療による集学的な治療を行なっています。低侵襲な腹腔鏡下手術を積極的に導入し、入院期間の短縮にも努めています。透析患者さんに対するシャントの手術も行っています。またがん患者さんの緩和治療や、訪問看護と連携した在宅医療にも力を入れています。

● 主な疾患について



◆ 胃がん

胃がんの原因がピロリ菌であることがわかってから胃がんは年々減っています。胃がんの家族歴のある方、ピロリにかかっていた(いる)方等はリスクが高いといえます。胃部不快感や痛みなどの症状がある方はもちろんですが、症状がない方も定期的な胃の検査、特に胃カメラをお勧めします。ピロリ除菌も重要ですので

内科で治療してもらいましょう。外科での胃がんの治療法は主に手術ですが、内視鏡的治療、化学

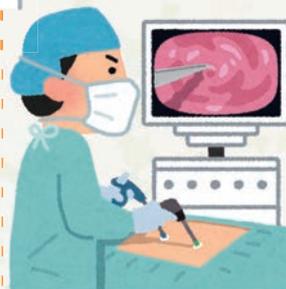
療法にも対応しており、腹腔鏡による低侵襲手術も行っています。術後は胃が小さくあるいは無くなるため、食事に制限が出てきます。食事の内容、回数、一回の食事量など栄養指導を受け、日常的に栄養管理を行っていくことが重要です。

胃がんの予防には、バランスのとれた食事と健康的な生活習慣が大切です。喫煙や飲酒、塩分を控え、野菜や果物を豊富に摂ることで、胃がんのリスクを減らすことができます。



◆ 大腸がん

大腸がんは年々増加しており死亡数で女性の1位、男性の2位になりました。早期の段階では症状がほとんどなく、便に血が混じる、血液が付着するなどの症状があっても痔の出血として見過ごされることもあります。検便検査や大腸カメラは早期発見につながります。家族親族に大腸がんがいる、潰瘍性大腸炎やポリープの既往がある方等はリスクが高く、定期的な検査や内視鏡的ポリープ切除で、大腸がんの発症を予防することができます。



外科の大腸がん治療は主に手術で、腹腔鏡下手術が多くを占めます。近年は化学療法の進歩により、個々の患者さんのがんの特性に合わせて効果的な薬を選択することができるようになってきました。大腸がんの予防には、バランスのとれた食事と健康的な生活習慣が重要です。野菜や果物の摂取、食物繊維やカルシウムの豊富な食品の選択、適度な運動、禁煙・節酒などが大腸がんのリスク低減につながります。



◆ 膵臓がん

近年膵臓がんの患者さんが増えています。膵臓はおなかの真ん中にあり検査で見つけにくい場所にあります。胃腸と違って膵臓のまわりには被膜がないため、がんが比較的小さいうちから周囲の臓器に広がりやすい特徴がありきわめて厄介です。また膵臓は消化液を分泌する外分泌機能とインスリンなどのホルモンを分泌する内分泌機能を備えているため、切除により様々な問題が生じます。周囲の臓器と複雑に絡んでいることから外科手術は体への負担も大きく難しい手術のひとつです。化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療があるものの、有効な薬に限られることからまだまだ治療成績は良いとは言えない状況です。



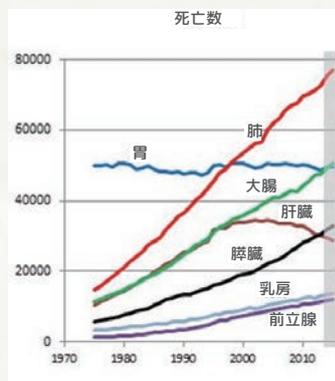
◆ 肝臓がん

肝臓がんの患者さんは近年どんどん減少しています。B型肝炎やC型肝炎など慢性肝炎の進行により出てくる病気ですが、近年ウイルス性肝炎に効く薬が開発され、肝炎が治る病気になってきたため肝臓がんになる人も減りました。肝炎の治療自体ががんの予防になりますが、脂肪肝を背景に出てくるがんもあるため生活習慣も重要です。肝臓がんの治療はもともと肝炎の治療中にみつかることが多く、内科的治療法もあるため、手術になる患者さんは比較的限られています。肝硬変など肝機能の状態に応じて肝切除を行っています。最近では肝臓がんにも効く薬も開発され、化学療法も選択肢の一つとなってきました。



● がんの死亡数

死亡数	男性	女性
1位	肺	大腸
2位	大腸	肺
3位	胃	膵臓
4位	膵臓	乳房
5位	肝臓	胃



● 外科スタッフ

豊田先生 大森先生 木下先生 荻野診療看護師 杉山先生



北先生 平山先生 帖地先生



降旗先生

● 外来医師担当表

		月	火	水	木	金	土
午前	一般	平山	帖地	木下	豊田	帖地	平山
	化学療法	荻野※	北		大森	杉山	北
	スキンケア外来	降旗		降旗		降旗	
スキンケア外来は当分の間休診いたします。							

北、大森：主に肝胆膵
 平山：主に大腸
 帖地：主に胃
 豊田、木下：外科一般
 降旗：化学療法外来(非常勤)
 杉山：乳腺専門外来(非常勤)
 ※荻野：診療看護師による診察

部署紹介 一看護部一

本館4階病棟（H4）



診療科：回復期リハビリテーション病棟 病床数：57床 看護師数：23名



回復期リハビリテーション病棟とは

回復期リハビリテーション病棟は、脳卒中や大腿骨骨折など対象者に対し、多くの専門職がチームを組み、心身の機能回復や必要な日常生活動作の改善を図り、家庭復帰や社会参加を支援していく病棟です。

病棟の方針

当院では急性期病棟で治療を行い、病状が安定してきた患者様を、回復能力の高い時期に当病棟へ移動し、患者様の状態に合わせ1日最大3時間のリハビリテーションを行っています。

また、リハビリ室でのリハビリテーションも実施していますが、病棟内にリハビリテーションスペースがあり、各スタッフが日々の様子や身体状況を確認し、病棟の生活に直結した訓練が行えます。そして回復期リハビリテーション病棟専従医が1名おり、退院後の生活を見据え、医師・看護師・リハビリスタッフ・医療相談員・薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士と相談し、ご家族・患者様が安心して希望する退院先へ帰れるようサポートしています。

看護の特徴

入院生活の中で朝起きて寝るまでの間、「ご飯を食べる・歯を磨く・髭をそる・トイレへ行く・着替える・お風呂へ入る」等、普段生活をする中で必要な動作もリハビリテーションととらえ、看護師・リハビリテーションスタッフ・看護補助者で協働し生活のサポートを行っています。また、疾病を考慮して全身観察を行い、二次合併症の早期発見や予防に努め、リハビリテーションで獲得した「できる能力」を日常生活に取り入れ「している能力」となるよう援助しています。

患者様が安心して入院生活を送れるようスタッフ一同で支援させていただきます。





部署紹介 一看護部一

本館5階病棟（H5）

診療科

脳神経外科
循環器内科

病床数

一般病棟48床
SCU 3床

看護師数

34名



SCU (Stroke Care Unit) とは

「脳卒中ケアユニット・脳卒中センター・脳卒中集中治療室」と呼ばれることがあります。

文字通り脳血管障害（くも膜下出血や脳梗塞）を起こした患者を24時間体制で受け入れる集中治療室のことを言います。

脳神経外科や神経内科などの専門医をはじめとして、理学療法士や作業療法士、看護師や薬剤師などが専門チームを組み、日々患者の治療にあたります。

主な疾患

脳外科疾患では脳外科全般の疾患の他に本態性振戦 に対するFUS治療（集束超音波治療）を実施しています。これはふるえで困っている方に対して全国で11カ所のみが実施している最先端治療です。私たちは急性期の患者さんが多い中で、安心・安全をモットーに異常の早期発見と合併症の予防に努めています。

循環器内科疾患では心臓カテーテル治療や 心不全の患者さんが入院しています。

専門性の高い看護を提供できるよう、定期的に医師とのカンファレンスを行い情報共有を図っています。

看護方式：プライマリーナーシング

プライマリーナーシングとは、1人の患者さんに1人の看護師が入院から退院まで24時間責任を持って看護ケアにあたる看護方式です。

看護師は患者さんのニーズに応じた個別のケアを提供し、患者さんとの関係性を深めます。

プライマリーナーシングの主な特徴は、看護師が患者さん一人ひとりに責任を持つことで、看護の質が向上することです。

患者さんのニーズを把握し、適切なケアを提供いたします。



2023年度 病棟目標

患者さんが自らの回復力を最大限に発揮でき、健康回復への気力を高められるような、個別的・計画的な看護を提供します。



総合健診 センター

の紹介



当院の総合健診センターは、
2018年に竣工されたPET総合検診棟にあり、
開設以来、地元熊谷市はもとより主に埼玉県北
部の各市町村の方々にご利用頂いております。
病院併設型の健診センターであるため、受診者
様の利便性に富む施設と考えております。



さて、当センターでは、
受診者様の多様化するニーズに応えるため、
“人間ドック”
“脳ドック”
“脳機能ドック”
“胃がん・大腸がん内視鏡ドック”
“膵臓がんドック”
“肺ドック”に加え、



PET/CTを用いた
“がんドック”を4種類揃え、
豊富なメニューをご用意しております。

「病気は早期発見・早期治療につきます。
病状が乏しいときにいかに早く治療できるか。
それには定期的な人間ドック・健康診断が重要」と
言われておりますが、当センターがその役割を
担えたならば幸いに存じます。



それでは、当センターの特色を2点ご紹介したいと思います。

1点目は、消化器領域の健診についてご紹介致します。

消化器領域の健診につきましては、健診センターおよび内視鏡センターの内視鏡専門医が中心に担当しております。センター化に伴い、1日当たりの内視鏡件数枠を増やすことにより、当院では概ね受診者様のご希望日時に検査可能でございます。また、こちらで行っている超音波内視鏡(EUS)による“膵臓がんドック”もご紹介しておきます。

膵臓がんは早期の場合はほとんど無症状で、多くは進行してから発見されることが多いと言われております。日本人では年々増加しており、がん死亡の原因としては男性で第5位、女性では第4位となっております。膵臓がんは一般的なドックや検査だけでは早期発見が難しいことが多いです。超音波内視鏡(EUS)はより明確で精密な診断ができる先端医療技術ですが、提供できる施設は限られており、MRIの検査を組み合わせることで膵臓がんの早期発見がより高い確率で可能となります。EUSは体内(胃内)からのエコー検査で、胃カメラと同様の方法でおこないます。また静脈麻酔を用いて実施するため、検査中に苦痛はありません。



2点目は、PET/CTについてご紹介致します。

PETとは、Positron Emission Tomography(陽電子放射断層撮影)の略称です。CTやMRIが臓器の形を写しだすのに対し、PETは細胞の代謝を観察する検査法です。がん細胞は正常細胞の3~8倍のブドウ糖を取り込みます。PETはこれを利用し、疑似ブドウ糖製剤(FDG)を用い、このFDGの分布から、腫瘍の存在を見つけます。PET/CTは、PETより得た情報とCTの画像とを同時に取り込む機器で、精度の高い検索を行う事ができます。当院のPET/CTは、解像度の向上と検査時間の短縮が得られた機種を使用しており、医療機器の性能を最大限、受診者様に還元したいと考えております。

是非、

“がんがないか、全身的に調べたい”

“血縁者にがん患者がいて心配”

“苦痛のないがんの検査を希望”という方は、ご利用を検討してみてください。



当センターのご利用を心よりお待ちしております。

お問い合わせ・ご予約

総合健診センター

月~金曜 13:00~17:00 ※ 土日祝、年末年始を除く

TEL : 048-521-7141

FAX : 048-521-9271





リハビリテーション科 ワンポイント講座

腰痛が気になる人へ 向けた運動



理学療法士
伊藤 飛翔

私たちリハビリテーション専門職は、
病院に入院されてきた方々に対し、日々リハビリテーションを提供しています。



腰痛は日本人の国民病といわれるほど多くの人に発症する障害で、
特に40～60歳代の中高年に多く見られます。日本人の成人は90%程度が
一生に一度は腰痛を経験するといわれるほど日常にありふれています。



腰痛には

いろいろな
種類が
あります

原因

- ・ヘルニア
- ・脊柱管狭窄症
- ・圧迫骨折
- ・慢性腰痛など



しかし、腰の痛みがあるのに
骨などの組織に異常がみられないものが
腰痛全体の85%を占めているといわれています。

1. 骨や筋肉の障害による痛み

(肉離れ、打撲、捻挫、関節痛、骨折など)

2. 神経の障害による痛み

(坐骨神経痛、腰椎・椎間板・靭帯の変形など)

上記で上げた原因の他に

- ・老化
- ・筋力低下
- ・腰の疲労蓄積
- ・生活習慣上の問題
- ・姿勢のゆがみ
- ・肥満による腰への負担など複合的な要素もあります。



腰痛の原因
はたくさん
あります

腰痛予防

皆さんが取り組みやすい運動をご紹介します!

腰回りの筋力と柔軟性が必要

腰回りのストレッチと筋力訓練を1つずつ紹介します!



ストレッチ



膝を抱えてお尻を伸ばします

ドローイン

口を
すぼめて
息を吐き
ながら
お腹を
凹ませます



運動は

“毎日やらなければいけない”
というものではないので、
運動していて痛みを感じる
場合や疲労がたまっている日など
は無理をせずに休んでください。

日常の中に混ぜてみるのが長続きのポイントです。是非、参考にしてみてください。

まちの医療機関

～くまそうの医療連携パートナーをご紹介します～

No.020

たがやクリニック

TEL:048-522-4480

- 診療科 内科・小児科
- 住所 熊谷市銀座 1丁目-110
- 院長 田ヶ谷 哲夫 先生
- 駐車場 5台ほどあり
- 診療所の特徴

2024年に開院25周年を迎える当クリニックは、熊谷総合病院からも程近く感染対策に努め、またバリアフリーの優しい環境です。内科は生活習慣病(特に痛風、糖尿病)に力を入れ診療しています。地域の皆様の健康維持をお手伝いするため医師・スタッフ一同、初心を忘れず努力しておりますので安心してご来院ください。

■院長先生のモットー・大切にされていること

身近で頼りになる家庭医として幅広く良質な医療の提供を心がけ、またかかりつけ医としての役割を大切に病院との連携に努めています。患者さまの身になって優しくかつ適切な治療をモットーにしています。



	月	火	水	木	金	土	日
AM 9:00~12:30	●	●	-	●	●	●	-
PM 15:00~18:30	●	●	-	●	●	● 17:30迄	-

- 診療時間:月~金 AM 9:00~12:30 PM 15:00~18:30
土 AM 9:00~12:00 PM 15:00~17:30
- 休診日:水・日・祝

No.021

石川医院

TEL:048-521-0089

- 診療科 内科・心療内科・精神科・神経内科
- 住所 熊谷市弥生1-50
- 院長 石川 めぐみ 先生
- 駐車場 5台ほどあり
- 診療所の特徴

熊谷駅に程近い所にあり、アットホームな雰囲気のある診療所です。身体疾患のある精神的ケアが必要な患者さんを積極的に診療しています。

■院長先生のモットー・大切にされていること

患者さんのニーズにあった、きめ細かな医療も心がけています。他院身体科の先生方との連携を大切にしています。



	月	火	水	木	金	土	日
AM 9:00~13:00	●	●	● 9:00~	● カウンセリング 完全予約制 9:00~	●	●	-
PM 14:00~16:30	●	●	14:30	● 13:30~ 17:00	14:30	●	-

- 診療時間 水・金曜は昼をまたいで診療を行います。
- 木曜は医師による診察、処方、点滴はできませんのでご了承ください。
- 休診日 日・祝

当院では、外来でのがん薬物治療における患者さんの安全性を高めるために、保険調剤薬局や他施設との連携を深めている状況です。2023年6月30日に地域連携を強化するために保険調剤薬局、他施設の薬剤師を対象とした研修会を開催しました。約40名の薬剤師が参加され、抗がん剤の皮膚障害の概要から、皮膚障害を対処する内服薬（抗菌薬）や外用剤（保湿剤、ステロイド外用剤）など当院で実施している内容を紹介しました。当院では地域の薬剤師と知識を共有を行うべく、定期的に研修会を開催してまいります。



院内で衛星電話訓練を実施しました

当院災害対策委員会を中心として、院内での衛星電話訓練を実施いたしました。これは大規模災害を想定した衛星電話を使用した通信訓練で、衛星電話の導入後、初めて実施致しました。

当日は20名ほど参加し、衛星電話の使用方法について確認を行いました。当院は埼玉県より令和4年1月1日付で「災害時連携病院」、「埼玉DMAT指定病院」に指定されました。災害時に重症患者を受け入れる22か所の災害拠点病院と連携を図りながら、中等症患者や容態の安定した重症患者を受け入れます。また、災害派遣医療チーム「埼玉地域DMAT」を保有し、災害現場での活動など速やかな医療救護活動を実施します。

近年、日本各地で大規模な災害が発生しております。いつかやってくる大規模災害に備え、当院も定期的に大規模災害を想定した訓練を行ってまいります。



7/27 アートで築こう地域の輪

正面玄関2階の通路に、埼玉県立熊谷特別支援学校の児童生徒さんによる作品が展示されています。毎年定期的に作品の交換が行われます。院内に来院された際は、少し足を止めていただいて、ご覧いただけると幸いです。どの作品も素晴らしい感性のある作品ばかりです。当院は、一昨年から特別支援学校の生徒さんの活躍の場として作品展示スペースを提供しています。



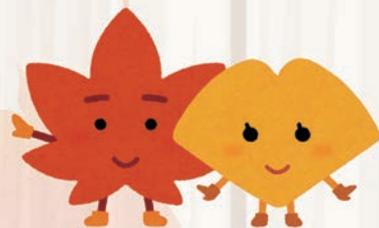
8/1 新ユニホーム に変わりました。

熊谷総合病院のユニフォームが変わりました。コロナ禍から心機一転して盛り上げていきましょう！

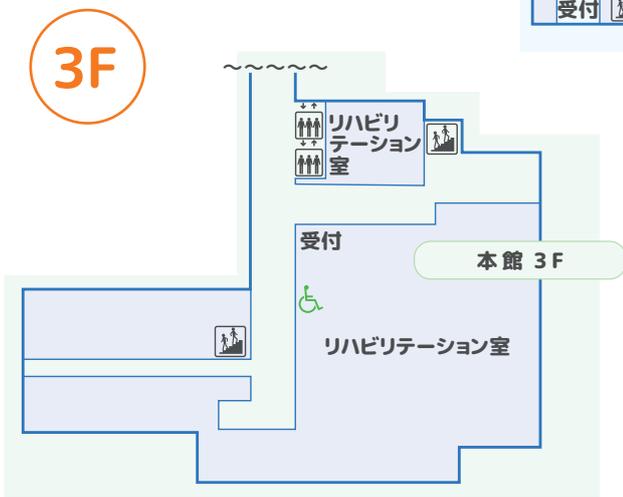
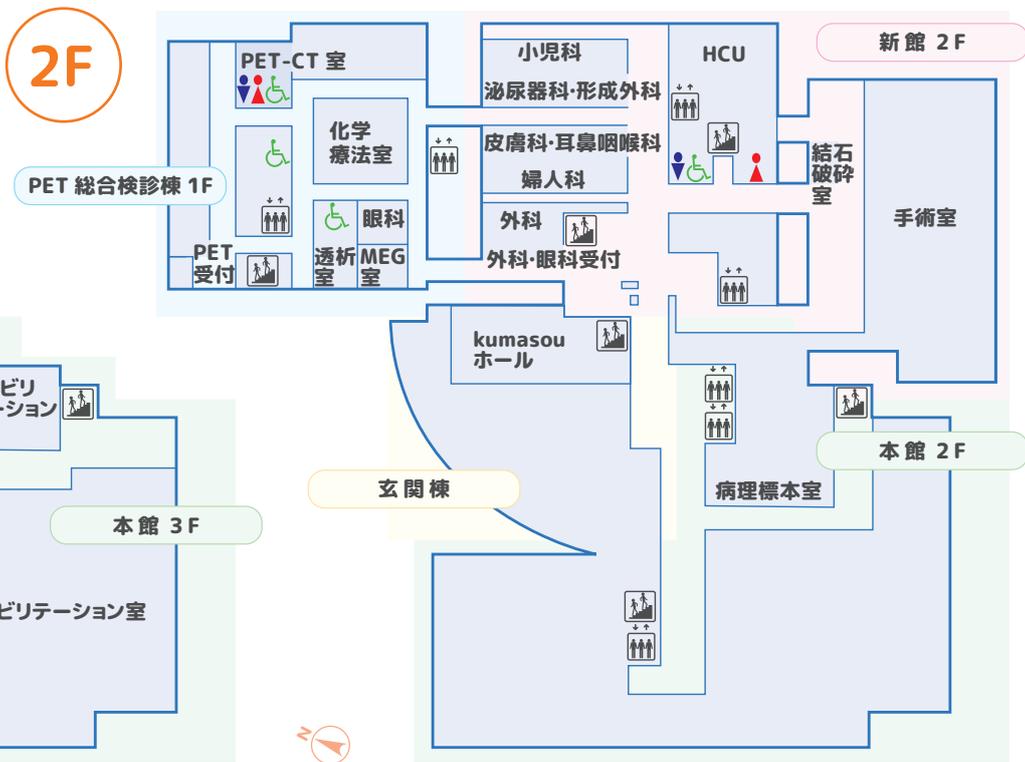
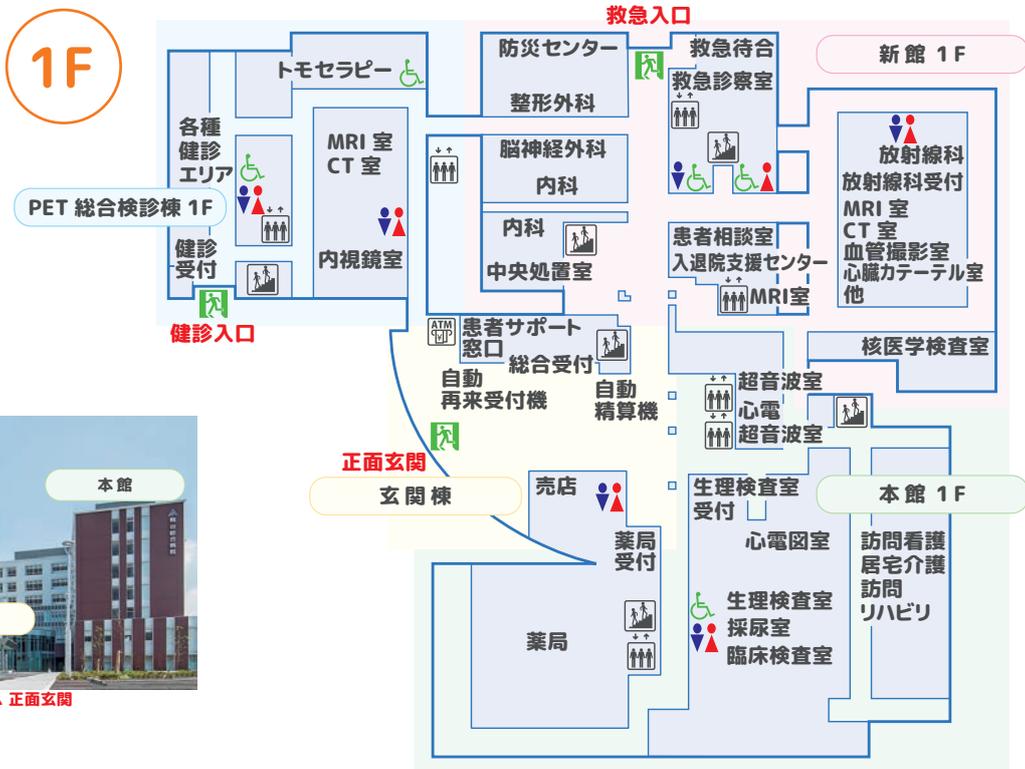


8/2.3 ふれあい看護体験（高校生対象） 8/2 8名 8/3 9名

高校1年～3年生の合計17名の参加でした。ユニホームに着替え、バイタルサインの測定・心電図モニター装着を行いました。看護ケア体験では手浴後クリームでマッサージすることで癒し効果を体験しました。学生の心の不安や進学・進路について寄り添うことができました。座談会ではより興味がわいた・参加して楽しかった・心のモヤモヤが軽くなったとの感想がありました。



くまそう 院内マップ 1F～3F



病院理念

わたくしたちは、この地に歴史をきざむ熊谷総合病院に勤める医療人です。
わたくしたちは、この地にふさわしい専門的視野と未来への展望に立って、ここに新生熊谷総合病院の病院理念を制定いたします。

- 一．わたくしたちは地域の一員として、すべての患者さんを心あたたかく迎え入れます。
- 一．わたくしたちは地域の医療を常に高く保つため、みずから進んで学習します。
- 一．わたくしたちは地域の未来をになう若き医療人の育成に励みます。
- 一．わたくしたちは地域の必要に応える最新医療を提供し続けます。

そしてわたくしたちは地域のあらゆる機関と協力して世界に誇れる病診連携をこの地、熊谷に築きあげます。



日本医療機能評価機構
認定第JC211号(3rdG/Ver2.0)



〒360-8567 埼玉県熊谷市中西4-5-1
TEL:048-521-0065(代) FAX:048-523-5928(代)
<https://www.kumasou.or.jp/>

